

この度はNTS111をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
 このトランシーバーは特別な資格や免許不要です、業務連絡やレジャーなど広範囲の用途ですぐに御活用いただけます。
 製品は厳重な品質管理のもとに生産していますが、万一破損などの問題があったら、お申し付け下さい。

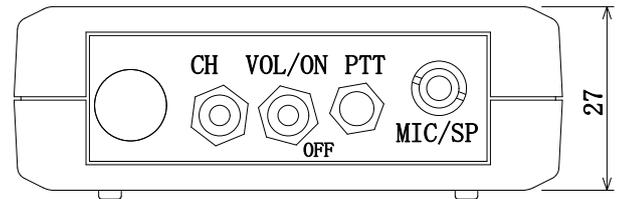
外観図 ↓

1. 付属品・・・単3乾電池4個、ACアダプタ(ADA-T60)、スピーカマイク外部電池パック、保証書(本書末尾)

☆電池は外部電池パックに入れてあります

2. 定格・仕様

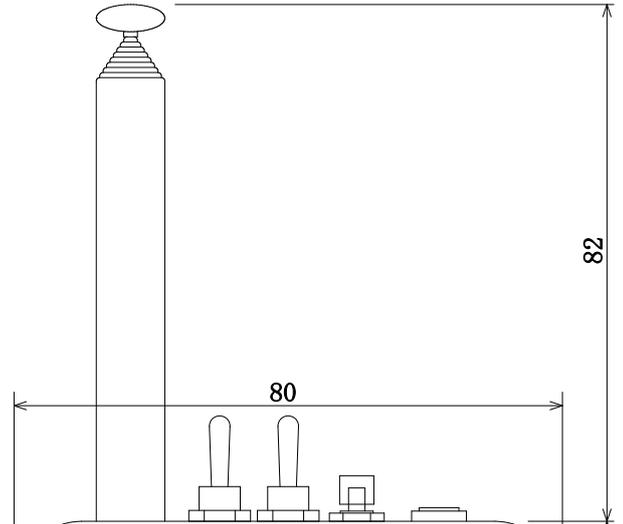
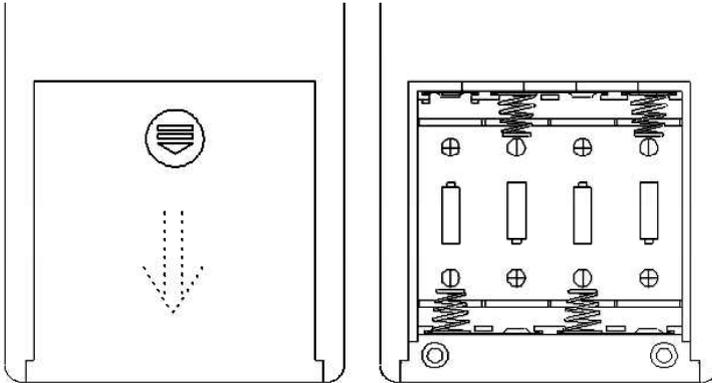
送受信周波数:26.968~27.144MHz(市民ラジオ用8CH)、
 電波型式:振幅変調(A3E)、発振方式:水晶発振(PLL)
 送信出力:500mW以下、受信方式:ダブルスーパーヘテロダイン、
 受信感度:約-2dBμV/25°C(S/N=10dB)、
 電源電圧:6VDC(単3アルカリ乾電池4個内蔵/外部電源接続可)
 消費電流:受信無信号時約60mA、送信時約650mA、
 ロッドアンテナ内蔵、本体重量:約400g(電池内蔵時)、
 本体外形:80×27×165mm(突起物を除く)



3. 電池の入れ方

背面の電池カバーを矢印の方向にスライドして電池カバーを外し、図の方向に単3乾電池4本を入れて電池カバーを戻す。
 長期間使用しない場合は、電池を取り外してください。

本体背面に電池カバー



4. 外部電源の接続

- (1) 右側面の電源ジャックへ付属ACアダプタを接続できます。
- (2) 外部電池パックも接続できます。(単3×4)
- (3) その他の外部電源を接続する時は、途中に1Aヒューズを必ず使用すること。

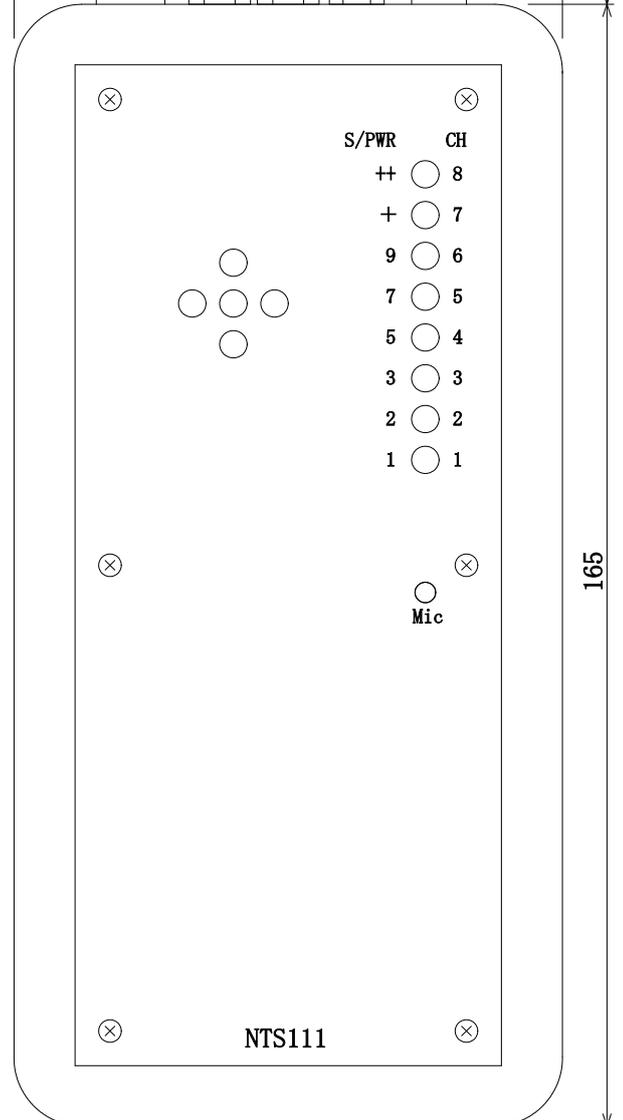
ヒューズ無しでは重大な故障が生じる場合があります危険!

電源電圧 6.6V以上は故障や火災等の恐れがあり危険!

電源コネクタの極性 → (+) () (-)

5. 操作方法

- (1) VOL/ONスイッチを背面方向へ押しと電源が入り受信状態。
 押し続けると音量が大きくなり約4秒間で最大音量。
 VOL/ONスイッチを手前に引くと音量が小さくなる。
 音量最小になってもスイッチを引き続けると約1秒後に電源が切れる。(漏れ電流約3μA)
- (2) CHスイッチを押すとチャンネルがアップして、引くとダウンする。
 CHスイッチを2秒間以上押し続けると8CHスキャンする。
 スキャン速度は1CHあたり約0.5秒、4秒で1周する。
 CHダウン, VOL, PTTスイッチを操作するとスキャン停止する。
 スキャン動作中はCHスイッチ操作時に約0.5秒遅れて音声が出る。
 手動でCHスイッチを急ぎ操作する時はスキャン解除して下さい。
- (3) 8CHスキャンしていない時にPTTスイッチを押すと送信になり、
 本体に内蔵のマイクとスピーカで送話できる。
- (4) MIC/SPコネクタに付属のスピーカマイクを接続して送受信できる。
 スピーカマイクは電源が切れている時に接続すること、電源が入っていると挿入途中で送信状態になります。



165

- (5) 8個のLEDは受信時Sマータを表示、CHスイッチ操作時チャンネル表示、送信開始時に約1秒間チャンネル表示その後送信パワー。電源が切れると全消灯。(LEDの1は受信時に信号が無い時も弱く点灯して電源が入っているのが分かります)
- (6) 長時間送信するとアンテナの根元付近が暖かくなりますが故障ではありません。
もし、異常に熱くなったり異臭がする場合は故障の可能性が有ります。
しばらく送信を停止して冷やすか、故障の場合は使用を中止して電池を外して下さい。
- (7) LEDの送信パワー表示は、ロッドアンテナへ出力する高周波パワーをリアルタイムに検出しています。
この表示と飛び具合は概ね比例します。ただしアンテナを縮めると通信距離は大幅に短くなる。
マイクからの音声でLED点灯は1つか2つ増えて変調がかかるのが分かる。電池が消耗するとレベルが下がる。
(送信出力表示のレベルが小さい時は変調の有無でLED表示が変わらない場合も有ります)
- (8) その他の機能 (スケルチとスキャン速度切り替えおよびチャンネルメモリー)
CHスイッチを押しながら電源を入れるとS 5レベルでスケルチ動作します・・・スキャン中もスケルチ動作。
CHスイッチを引きながら電源を入れるとS 2レベルでスケルチ動作します・・・スキャン中もスケルチ動作。
PTTスイッチを押しながら電源を入れるとスキャン速度は遅くなり1CHあたり約1秒、約8秒で1周します。
PTTスイッチとCHスイッチを押しながら電源を入れて、先にPTTを離すとS 5のスケルチレベルで1秒/CHスキャン可能になる。
PTTスイッチ押ししてCHスイッチを引きながら電源を入れ、先にPTTを離すとS 2のスケルチで1秒/CHスキャン可能になる。
CHスイッチを押しながらVOL/ONスイッチを手前に引いて電源を入れると、送信は1チャンネル固定になり、受信時はCHスイッチを押すと1CHでCHスイッチを引くと27.255MHz(OCH)を受信する「チャンネルメモリー」になる。
これらの機能はVOLスイッチだけを操作して電源を入れ直すと解除されます。